

第3章 デンマークの教育行政について



「子育てと教育は、責任と尊敬を伴った
自由を基本にしなければならない」

ニコライ・グルントヴィー

(今日のデンマークの文化や政治のあり方に
大きな影響を及ぼした教育者)

調査目的

OECD による世界各国を対象とした学習到達度調査 (PISA) において、日本の学力低下が指摘されている。東京都の教育の充実・発展させることを目的として、イギリス・ロンドンの公立学校と寄宿学校、フィンランド・ヘルシンキの公立学校並びに、デンマーク・コペンハーゲンの学校の教育現場視察をすることより、各々の違い、優位性を吸収し、優れた実績を修めた国の教育システムや教育現場の視察を実施する。

ここではデンマークの教育視察の報告をする。

《視察日時 2010年2月5日(金)》

《視察先》

1 聖アンネ・スクール

Mr.Soren Biinkberg 副校長

2 ヴァスンス・スコーレン障がい児施設

Mr.Peter Stennicke 校長

3 マルグレーテゴーアンス・バーネフス
託児所・保育園

Mrs Lisbeth Borup Jakobsen 園長



聖アンネ・スクール 校庭にて

※ 以下デンマークの教育報告の部分において、理解し得やすくするために便宜上、託児所を保育園、保育園を幼稚園と置き換える。

デンマーク王国 Kingdom of Denmark の概要



1. 面積 約 4.3 万平方キロメートル（九州とほぼ同じ）
（除フェロー諸島及びグリーンランド）
2. 人口 約 551 万人（2009 年デンマーク統計局）
3. 首都 コペンハーゲン（2007 年調査コペンハーゲン市の人口約 50 万人）（2007 年調査）
4. 言語 デンマーク語
5. 宗教 福音ルーテル派（国教）

経済状況

1. 主要産業 農業、畜産業、化学工業、加工業
2. GNI 2,998 億ドル（2008 年、世銀統計）
3. 一人当たり GNI 54,910 ドル（2008 年、世銀統計）
4. 経済成長率 1.8%（2008 年、世銀統計）
5. 物価上昇率 0.6%（2008 年、世銀統計）
6. 失業率 2.3%（2009 年 1 月、デンマーク統計局）
7. 総貿易額 (1) 輸出 1,035 億ドル（2007 年、WTO 統計）
(2) 輸入 996 億ドル（2007 年、WTO 統計）
8. 主要貿易品 (1) 輸出 機械、肉・酪農製品、医薬品等
(2) 輸入 機械、乗用車、鉄鋼等
9. 主要貿易相手国（2007 年）
(1) 輸出 EU、米国、ノルウェー、ロシア、日本、中国
(2) 輸入 EU、中国、ノルウェー、米国、ロシア、日本
10. 通貨 デンマーク・クローネ
11. 為替レート 1 クローネ=15.86 円（2009 年 2 月）

外務省 HPより⁹

⁹ 外務省 HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/denmark/index.html> 2010.5.10
17:30

教育行政について

はじめに

教育施策について論じる前に、デンマーク人の気質に触れておく必要があると考える。デンマークは高福祉・高負担といわれるが、教育費・医療費などは無料になっている。

所得税は最高税率が50%を超え、消費税率はEU圏内最高税率である25%を採用している。これだけの高負担であるにも係わらず、国民は税金を納め不正はしない。お互いの事を尊重し、信頼している。安心感と豊かであることを喜び楽しむことが国民の夢である。国は、皆が幸せな生活を送れるように財政的な安心を築きながら、一人ひとりの目標に合った労働スタイルを提供する。

出生率が高く、また世界的に比較しても、独立・自営業などが多く非雇用率の低い国でもある。そして、健康管理、生活保護、育児手当や教育などの社会保障制度が充実している。また、国民の気質として起業家としての精神から世界で最もビジネスに適している国と位置づけられている。と聞いた。

このような国民意識と政府による政策により、教育環境は整えられてきている。公立教育はすべて無料である。一部私立の学校が存在しているが、その私立学校（フリースクールと現地では呼んでいた）運営費の70%を国費にて支給されている。教育費については、国民全体が教育制度を高い税率の負担をして、支えているということである。

なぜここまで国が教育について財政支出（投資）をするのかといえば、これはデンマークという国情によると考えられる。つまり人口の少ない国の認識なのかもしれないが、「国づくりは人づくり」という認識を持っている国民性があると考ええる。

フレディ・スヴェイネ前デンマーク在日大使は、「デンマークも日本も「知的資源」に依存している社会であると思います。その知的資源を正しい方法で活用することが必要です。ここ数年グローバル化によって社会の状況は著しく変化しています。知的資源を利用するための明確な戦略が必要です¹⁰。」

と記しているように、グローバル化に対応するため、国の発展のためには人的・知的資源が必要である。その観点から教育改革を進め、教育には非常に力を入れているのが現状である。その証左としてデンマークの教育への投資はGNPの8.2%をしめ、世界でトップ（2006年）であり、同時期日本は3.7%にとどまっている。

¹⁰ デンマーク大使館発行「ラビング」P10

デンマーク王国の国民学校の目的規定（法律規定）

- 「1 国民学校は、保護者との協力のもとに、生徒が、知識、技能、労働の方法、自己の表現方法を獲得することを促し、個々の生徒の全面発達に寄与するものとする。
- 2 国民学校は、生徒に自身の可能性についての自信と、個人の行動を取るための独立した判断力を形成する経験を獲得させるために、生徒が自覚と想像力と学習意欲を発達させるような経験、勤勉、没頭の機会を作り出すように努力するものとする。
- 3 国民学校は、生徒にデンマークの文化に習熟させ、他の文化や人と自然との関係を理解することに貢献するものとする。国民学校は、生徒に自由と民主主義に基礎づけられた社会での積極的な参加、共同の責任、権利と義務の準備をさせるものとする。そのために、国民学校での教育と日常生活は、知的な自由と平等、民主主義に基礎づけられていなければならない¹¹。」

デンマークでは厳格に学校の目的規定が定められ、運用が図られている。これは視察先の学校においても、学校運営の現場の指標として運営されていた。

デンマークの教育制度

「デンマークの義務教育は、7歳から16歳である。約9割の児童が、初等教育と下級中等教育を一緒にした公的教育システム「フォルクスコール (Folkeskole)」に進む。9年間の教育の後、半数以上は卒業するが、任意で第10学年へ進級する場合もある。卒業後は約半数が職業校（工業か商業）、45%が大学進学を目的とした一般的な上級中等教育へ進み、約5%は進学をせずに就職する。

一般的な上級中等教育の中で、日本の普通科高校に当たるのが「ギムナシウム」である。「ギムナシウム」は3年間の課程であり、「フォルクスコール」での9年間または10年間の教育の終了直後進学する。カリキュラムは、語学コースと数学コースの2つに分けられる。大学進学準備をする学生と同様の一般教養が受けられることを目的に設置された。

デンマークには、約150の「ギムナシウム」があるが、その大多数は県によって運営されている。また私立学校はそのうち約20校で、これには国が予算の80～85%を供出している。もう1つの一般的な上級中等教育（HF：図1参照）は、一度は就職などで一般的な進学コースから外れたものの、再度大学等で高等教育を受けようとする成人お

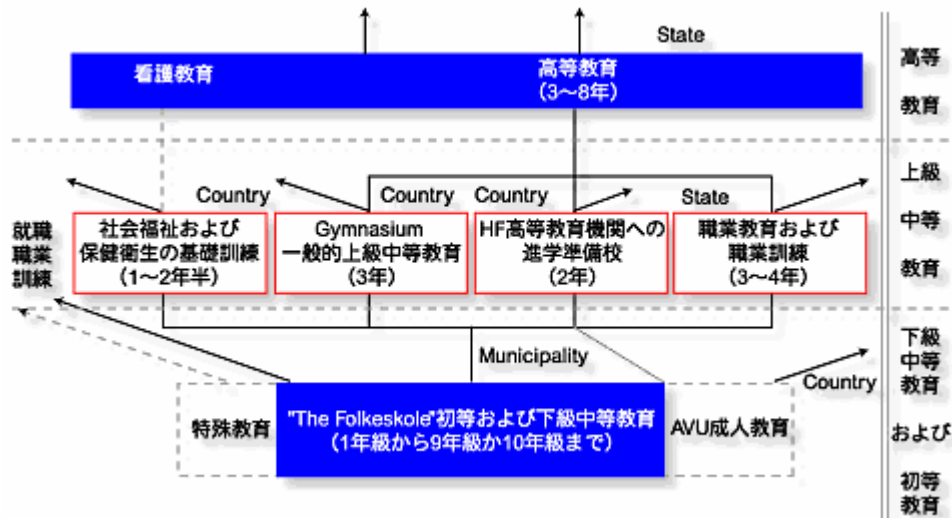
¹¹ デンマーク教育省HP

<http://eng.uvm.dk/Uddannelse/Primary%20and%20Lower%20Secondary%20Education/The%20Folkeskole/The%20Aims%20of%20the.aspx> 2010.5.12 15:05

よび若者のために、1960年代半ばに誕生したシステムである。もちろん、希望すれば「フォルクスクール」の第10学年終了直後に、進学することもできる。

「HF」は、全日制であれば2年間で終了できるが、働きながら学ぶ場合などは、長い年月をかけ単位を取得していくこともできる。

図1 デンマークの教育制度



義務教育9年間とあるが、現在では7歳からの入学前に幼児教育として6歳児からの「就学前教室」が1年間追加され、合計で10年間の義務教育となる。この1年間は就学前の遊び中心の生活から授業中心の学校生活に円滑に移行できるように配慮されたものである。

学校教育事務については、日本の小学校・中学校に当たる初等教育および下級中等教育を市が行い、高校に当たる上級中等教育および成人教育を県が行う。また、職業教育および大学等高等教育は国が行う。教育は基本的に無償である¹²⁾。

歴史的変遷 グローバリゼーションへの対応

デンマークでは9年間の義務教育の終了時に行われる卒業試験まで学力テストがなかった。しかし、これでは個人の学力進捗について把握する機会が奪われ、卒業時点での学力不足分野の確認もできない状況である。卒業試験対策になった段階では「時すでに遅し」という状況もあった。

¹²⁾クレア ロンドン資料 <http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/gyosei/089/INDEX.HTM#1>
2010.5.10 17:00

図2 《2000年・2003年に行われたPISAの結果》

PISA 結果	デンマーク		参考（日本）	
	2000年	2003年	2000年	2003年
数学的リテラシー	12位	15位	1位	6位
読解力	16位	19位	8位	14位
科学的リテラシー	22位	31位	2位	2位
問題解決能力（2003年より実施）		14位		4位

図2にあるように、2000年、2003年に行われたPISAにおいて、わが国も含めて、その順位を大きく下げている。国としてグローバリゼーション化を図っているデンマークにおいても非常なショックを受け、2006年教育改革法案の提出に及んだ。



授業中の教室内

時の教育大臣によると、「毎年1万人の生徒が読解力に不安を持ちつつ卒業している。かれらは職業的訓練をおえることや、将来の就業に困難を感じることになるであろう。グローバリゼーションの準備を学校制度に期待する基準に達していない。デンマークはOECD諸国の中において一人当たりの教員数をもっとも多い国のひとつである、初等教育（小学校低学年）では11人弱の学級であり、上級（小学校高学年）では13人強。

その後は（おおむね中学生）20人以下の学級になっている。つまりそれだけの教育費を支出しているにも関わらずそれが結果として結びついていない。伝統的な考える力を重視する教育を踏まえたうえで、知識を吸収する教育へと継続的な教育を目指す。

そのために初等学校と前期中学校の期間に10回の義務的なテストに合格しなければならない事とした。この結果は順位づけではなく、秘密扱いとし、クラスの結果をデンマーク全体の一般的な達成水準との比較に利用される。また個別には生徒一人ひとりに対して個別学習計画を導入することとした。これはテストの結果を踏まえて欠点を修正するための個別計画となる。

学校運営に対する責任は地方自治体が負う。責任の負い方には全国的にはばらつきがあるので、その達成された成績、教育的発達について報告書を求めることとした。また成績が水準に達していない場合は改善策の作成を求めている。（個別指導計画に反映されている）これは、地方自治体が生徒の学びに全般的な責任を持ち、個別の学校に関心

が払われなければならない事を明文化したものである。

就学前学校は義務化される予定であり、言葉の訓練も新しい就学前学校の中に組み込まれる予定である¹³。」と以上のように、教育制度改革をすすめている。



スクリーンを使った授業風景

視察先報告

聖アンネ・スクール Otto Ruds Vej 7 2, 300 Kobenhavn Sdy

Soren Biinkberg 副校長のヒアリング内容

デンマークでは義務教育に入る以前、0歳から3歳までは保育園。3歳から6歳までは幼稚園になるが、現在6歳児の95%はプレスクール（就学前学校）に進み、7歳から国民学校に就学することになる。

¹³デンマーク教育省 HP <http://eng.uvm.dk/> 2010.5.12 PM15:05

現在 95%の6歳児がプレスクールに進む理由は、遊びの場から学習の場が変わるので、環境の変化になじませるといった目的がある。

また学校という位置づけになるので教育費がかからない、というのがプレスクールに通わせるという大きな理由にもなっている。プレスクールは午前中で終了するので、午後は保育園に通わせるという親が多い。

聖アンネ・スクールは、コペンハーゲン市内から車で約30分の所にある住宅地域にある学校で、国民学校ではなく、フリースクールと呼ばれている私立学校である。

国民学校には国内で590,000人が通っており、フリースクールには95,000人が通っている。フリースクールに通う生徒は全体の13.8%を占めることになる。

私立の学校とはいえ、運営費の70%は国費でまかなわれており、残りは家庭からの負担でまかなっている。この学校における父兄負担金額はひと月1000DKK（18,000円）であるが、高いところではひと月1800DKK（32,400円）の負担になる。

この学校の沿革はカトリック教を基盤とした学校で、以前にこの地域の教会が作った学校がその出発点であるがために、フリースクールとしての歴史をもっていた。その後1967年に教会から独立し、現在のフリースクールになった。

この学校には530人が学んでおり、1クラス25人で構成されている。国民学校は約20人であるので、このフリースクールの方が1クラスの数が多いことになる。

一般的にフリースクールの方が、国民学校より学力が高いと言われている。またこの学校のように宗教に立脚した学校が多くあり、アラブ系ドイツ系の学校などもある。このフリースクールではキリスト教は週に2時間教えるが、国民学校は週1回の学校が主である。このように国民学校法に従いながらもフリースクールの独自性も保たれている。

9年生10年生になると職業実習が入ってくる。デンマークは教育の視点として、いわゆる手に職をつけ自立して生活を営み、社会に出て独立・自営の率が高いと言われることに象徴されるように、「資格を取る・自立をする」ということが社会人として、個人としての目標になっている。実際18歳以降にはほとんどの人が親元を離れ独立するというお国柄である。

高校普通課進学率は約半分、残りの半分は、一部就職する人を除いては、職業高校に進む。とりあえず普通高校へ進学しておこうということではなく、デンマークでは手に職をつける。というのが一般的なもので、それぞれが目的をもって職業高校を選ぶ生徒が多い。しかしながら、職業高校に進学した後であっても、普通高校、大学進学への門戸は開かれている。



Soren Biinkberg 副校長と

デンマークの国民学校は、国ではなく地方自治体に学校運営を任せている。学校には運営理事会がある。これは学校の経営的側面を協議する場となっている。教育と運営を二つに分けているという点がデンマークの特徴である。これにより、国民学校とフリースクールには差がある。例として、国民学校では一つの施策を行うにあたり地方自治体と協議するので時間がかかるが、フリースクールでは必要に応じ運営理事会を開き施策決定を行えるので時間がかからない、ということがある。



聖アンネ・スクール 授業風景

国民学校とフリースクール双方において、独立性と公平性を保つのはデンマークの基本的な認識として国民に広く浸透している考え方である。また、フリースクールの特徴は学習の進展と宗教教育に象徴されている。そして学費は低廉であり、社会主義的な要素を持ちつつ、想像力を大事にする学校を作れるという利点がある。国民学校は自由選択制である。



複数の先生が担当する低学年教室

ただ人気のある学校は多数の応募があるので、そのときは学校の近隣の生徒を優先する。

今、学力テストも始まり、政府が競争をみとめているので、学校間で競争が始まり序列が出来てきている。

これは、競争・格差が出始めているということである。

PISA について

デンマーク政府はPISAの結果をもとに、教育改革を進めているが、国内にはPISAに対する同意意見と反対意見がある。PISAの結果は、総ての能力の判断ではない。自立心が強い国民性であるので、結果に振り回される必要もないと考えている。学力を高める必要はあるが、それだけではない。また、成績が良いと言われているフリースクールのほぼ総ての学校はPISAに参加していないので、国内全体の平均を表しているとはいにくいという意見もある。

インクルーシブ教育について

普通クラスに障がい児も一緒に入っている。1人1週間につき6時間の指導員が入っていた。この学校には25人の障がい児がいるが、生徒同士の理解と協力もあり、これで十分であると校長は判断していた。

教諭の採用について

教諭になるには高校卒業後、教員養成大学に4年間通う。そして専門教科を4科目選択する。卒業試験（資格試験）に合格後、教諭になれる。また、現職の教諭にも教諭教育もある。教諭として採用、配属されるには、地方自治体がまず採用を決定し、あとは学校運営理事会の判断により配属を決めていく。

司書について

デンマークでは伝統的に本を読む教育が行き届いている。したがって学校図書館に図書司書がつめていて、生徒は図書司書の指導により学習能力（調べる能力）を積んでいる。また生徒は一週間に一度は必ず図書館に行く。

授業方法について

一般的に黒板に板書の教育方法ではない。発表などを通じて、グループ勉強、相互協力などの学習をしていく。つまり学力偏重ではなく協議・協調し、考える教育を重視している。

保護者とのかかわり

保護者との連絡は密にして行っている。個人面談を年二回行い、発表会などのイベントを通じて父兄通しのコミュニケーションを深めている。父兄会では、社会的問題、（飲酒・ドラッグ等の問題も含む）いじめ、学習面での懇談・相談を行い、問題発生時は担任を中心に問題解決に努力している。

ヴァスンス・スコーレン障がい児施設 Carl Nielsens Alle 33 2100 Kobenhavn 0

重度身体・知的障がいをお子たちの学校施設を視察した。ここもコペンハーゲン市内から程近い場所に所在している。オリンピック招致活動に民主党鳩山首相（当時）がコペンハーゲンを訪れた際に幸夫人が訪問した施設である。

Peter Stennicke 校長のヒアリング内容

この学校も、デンマークの教育の根本原則である「すべての子供は等しく教育を受ける権利がある」という視点から教育をしている。学校の方針としては各個人の能力に合わせて準備をし、教育プログラムを策定している。

1 学校について

この学校はコペンハーゲン市に在住の、重度知的・身体障がい児のための4箇所ある学校施設の中のひとつである。ここはデンマークの中においても良い施設であると説明を受けた。学校の建物本体は以前病院であった建物を利用している。



Peter Stennicke 校長と

2 指導について

義務教育なので、障がいをお持ちの子供たちがこの学校に通ってくる。

自閉症、ダウン症、寝たきりの子ども、多動症の子どももいる。多動症の子供の中には薬で抑えている子どももいる。

朝8時に登校し、学童保育を経て16時～16時半に帰宅していく。子供たちに総じて言えることだが、表現力が乏しい子供たちなので言語とは違うコミュニケーションをとる方法をとっていた。

また、自閉症児者には厳密な時間管理が非常に有効であると説明された。これは自閉症児者の指導に向けて重要な指摘である。(後掲写真P.40参照)

教育は「自分自身の判断力を高め、コミュニケーションを表現できるスキルを身につけるように子供を教育することが重要である。」1970年以降、現在では社会全体がこのお金もかかる教育に対して肯定的に判断をしているが、国民的な合意も必要である。これは他者にたいする寛容性と表現できる。そして、学校・福祉・警察との連携も重要な要件である。

3 学校運営について

この学校は、その他の施設に入っている子供たちのための義務教育の一部も通級として受け持っているので、現在80名の子供たちに対して120名の職員がいる。職員の内訳は教師・保育士・運動療法士で、精神診療士・医師も必要な時に連動している。

国民学校と同じように6歳から17歳までのお子さんの指導をする学校なので、すべて無料である。教諭の給料は高く、優遇されている。教諭は常にこの費用は税金から拠出されていることに気を配りつつよい結果を出すように努力し、またよい結果を出している。と説明を受けた。

4 進路について

ここを卒業してからは、3年間の特別学校がある。しかし残念ながら知的障がい児の進学は難しい。この学校にいる間に親から独立する準備を進め、卒業後は進学するか、グループホーム・デイセンターなどの施設に入所し、成人教育をうけながら共同生活を送ることになる。「だれでも希望すれば入所できるか」と質問したところ、各自が市に申請し、市が入所を判定していると聞いた。また「待機生徒はいるか」と質

問したところ、その場合は国に訴えることができると説明を聞いた。



さまざまな車椅子



移動用クレーン・レーン



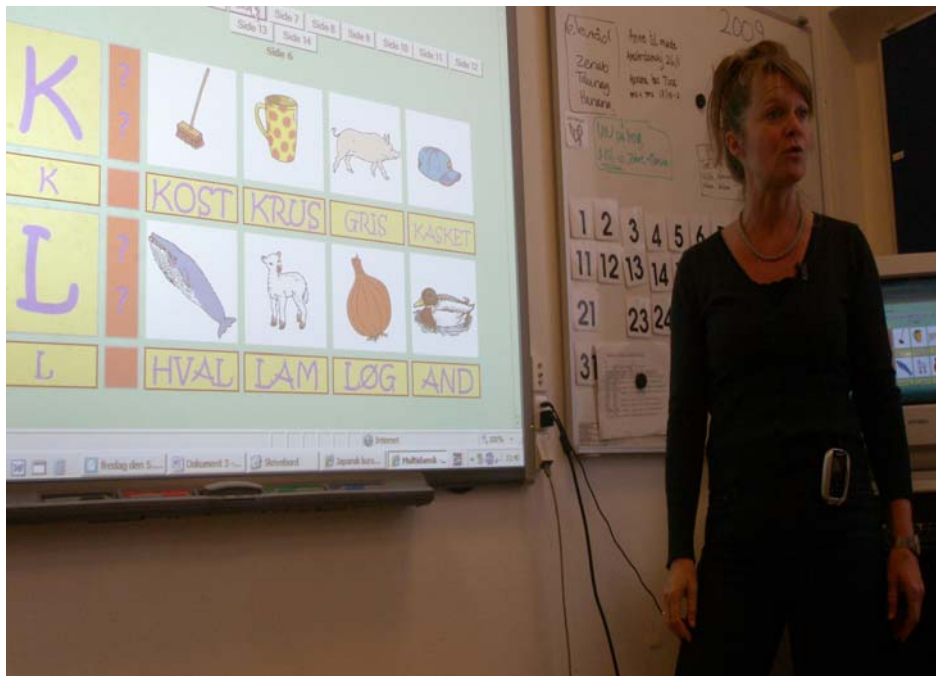
絵で意思疎通する機械



自宅にいるようなリラックス空間



自閉症児者用の個人の時間割表



言葉を覚えるためのシステム

マルグレーテゴーアンス・バーネフス保育園・幼稚園

Retortvej 49 2500 Valby

就学前の教育施設視察先として保育園・幼稚園を視察した。

Lisbeth Borup Jakobsen 園長のヒアリング内容

1 運営について

保育園は0歳児から入所し、6歳児になると就学前のプレスクールに移る。

1日の流れとして、6時15分にスタートする。7時半までに登園し朝食も出す。昼食とおやつを出して17時に終わる。

2 入園時期について

デンマークでは育児休暇が1年間認められているので、まず両親が0ヶ月から8～9ヶ月間を育児し、生後9～10ヶ月の子供たちが保育園に入所してくる。

残りの2～3ヶ月の育児休暇期間は、子供さんがある程度大きくなったときに、夏休みなどの長期休暇にあてるために残しておく家庭が多い。

幼稚園は4歳から入園し、6歳からはプレスクールに移る。また、プレスクールは午前中で終了するので、午後は保育園で預かる。この施設の職員は37人であるが、アシスタントも来ていて108人の子供たちのお世話している。おおよそ、日常4人の子供を1人の職員で見ている。

3 運営について

ここでも国民学校同等「運営委員会」があり経営面は運営委員会が担い、園長は運営委員会が雇用し、保育は園長が責任を負う。運営委員会には両親も入っている。

4 園について

この園は2007年に保育園と幼稚園を統合した。その利点は規模を大きくしたこと、で経費の節減につながった。また子供の個人個人の成長の目標も立てやすくなり、子どもが保育園から幼稚園に移行する際に、ほかの場所に行かなくてもすむようになり、子どもたちが安心して生活をし、幼稚園へ移行できる。

親同士も顔見知りになるため親同士もコミュニケーションが深まり、園とも連絡がとりやすくなった。

費用は、保護者負担として、半分は市から支給されるものの、保育園は1月3,000DKK（約54,000円）かかる。幼稚園は1月2,000DKK（約36,000円）になる。



Lisbeth Borup Jakobsen 園長と

5 6つの教育目標

この保育園、幼稚園でも、学習的要素を踏まえて6点の教育目標を掲げ保育していた。

- (1) 個々の成長（情緒面を重視）
- (2) 他者との協働など、
社会生活の社会性の能力の成長
- (3) 言葉の成長
- (4) 自然との共生
- (5) 文化的な協調
- (6) 体力の向上



おやつ時間

視察を終えて（考察）

デンマーク王国は日本の九州とほぼ同じ面積の国土に、東京都の半分くらいの551万人の北欧の国である。デンマークの教育の基礎は「平等・公平」という言葉で始まり、誰にも平等に教育を受ける権利があるとしている。

義務教育は7歳から始まり、9年間の教育という国民学校がありいわゆる小中一貫教育になっている。2006年に教育改革が行われ、現在では6歳から学校教育にスムーズに移行できるようにプレスクールが始まり、トータルで10年間の教育となる。

教育費は無料になっている。一部私立学校（フリースクール）があるが、この学費も70%は国が拠出し、残りの30%を親が負担することになっている。

フリースクールは全国の学生の13.8%を占めている。進路はこの国民学校を卒業すると全体の5%程度の卒業生は就職し、残りの半分は職業学校へ、半分は普通高校に進学する。その後、3年～8年の大学に進学もできる。

デンマークにおいてはグローバル化の対応として、教育に非常に力をいれている。クラスは総じて20人以下のクラス編成で運営されているが、フィンランドの教育の様に勉強の遅れだした子供を教室から連れ出して別の教室で個別指導をする、ということはない。

教育への投資は世界トップでGNPの8.2%をしめている。同時期の日本の教育に対する投資は3.7%と比較してもその割合は大きいことがわかる。しかしながら、2000年2003年のPISAテストによるとデンマークの評価点は下がってしまった。このことを契機にして2006年に教育改革が行われた。いままでは国民学校の卒業試験しかなかったのだが、教育課程中に10回のテストを行い、個別指導計画を立てて指導に当たるように改革が行われた。このテスト結果は秘密とされ、個人の結果は本人と両親のみに知らされ、自分自身の位置が全国レベルと比較することは出来る。担任は、自分のクラス平均値がどの位置にあるかを確認する手段としてのみ利用し、決して個人並びに学校の順位付けをするためのものではない。個人情報保守が罰則規定とともに担保されている。

私たちは、コペンハーゲン市にある聖アンネ・スクールとヴァスンス・スコーレン障がい児施設並びにマルグレーテゴーアンス・バーネフス保育園・幼稚園を視察できた。

聖アンネ・スクールは国民学校とは異なり、私立学校（フリースクール）だが、その運営費の70%は国費でまかなわれている。私立学校の独自性を持ちつつ国の法律にも準拠した教育を実践し、前掲の写真のように多民族の生徒が集い個人を尊重した平等な教育環境を整えていた。子どもたちは暖かく我々を迎い入れ、すぐに打ち解けた関係を築くことができた。これもお国柄なのかも知れないが、日ごろから多民族の友だちとクラスをひとつにしている国際的な環境があるからなのではないかと思う。

この学校は私立学校であるため、他の公立学校より学力・施設とも恵まれた環境である。国民学校と比較しても、いろいろな改正はすぐに対応できる機敏性があると副校長は話されていた。

授業中は静かであり、集中して授業をしていた。低学年クラスには2人の教諭で、きめ細かい指導が行われていた。高学年に進むにつれ、先生の話聞きながら、生徒同士が議論をして問題解決に当たる。という授業を視察した。

低学年における授業は「先生の指導を受ける」という授業であったと思うが、学年が進むにつれて、「どうしてそうなるのか」という、思考をさせる授業になっていた。つまり知識詰め込み型ではなく、考える力を伸ばすという授業であった。参考にすべき点である。

校庭にある残雪の中、子どもたちは元気に遊んでいた。我々が校庭の写真（P.28）を撮っていたところ、前掲の校庭での写真のように自然発生的に回りに子どもたちの輪ができた。屈託のない笑顔と瞳は忘れられない。この瞳輝く子どもたちのすこやかな成長を心より祈念する。

日本においても、もしかしたらPISAの結果にふりまわされず、しかし参考にしながら、子どもたちの教育を考える必要があるのかも知れない。記憶学習が必要な時期もある。この学習を踏まえ、考える力をクラスで協働しながら養っていく事は、子どもたちが将来如何に暮らすかという事を自ら考え出す、言い換えれば「生きる力」をつけさせる教育になるのだと思う。都政においても、この生きる力の教育を大事にするべきと考える。

ヴァスンス・スコーレン障がい児施設には、重度の知的・身体障がいのある子供たちの教育施設である。多くのスタッフが、最先端の障がい児教育を実践していた。なによりも、スタッフの並々ならぬ自信と情熱を感じたのは私1人ではないと思う。

スタッフは障がい児に深い愛情を持ったまなざしを注ぎ、子どもたちを見守っていた。

以前病院であった場所に設置されているので、施設は満足できる状態である。身体障がいの子どもたちのために、廊下部天井には生徒を移動させるためのクレーン・レーンが施され、自分で歩行できない生徒はレーンの力を借りて移動できるように工夫されて

いた。そのほか電気車椅子など、各種の補助機器も充実していた。

知的障害の子どもたちのためには各種の訓練のための道具、施設がしつらえてあった。あたかも自宅にいるのではないかと思わせるようなリビングスペースなどもある。

また、自閉症児者の指導方法については、「自閉症児者の指導には、厳格な時間管理が重要である。」と校長が非常に興味深い話をされた。私事になるが、自閉症児者の多動の子ども世話をしたことがある。その経験から考えると、致し方なくその時その時の対応に追われてしまっていた経験がある。校長は厳格に時間で管理をする。管理といっても、時間割りで普通に授業をする。お昼を食べる。という生活習慣を身に着けることであるが、この時間を厳格に守る生活が生徒にとって落ち着いた指導につながっていた。実践に裏打ちされた非常に参考になる事柄であると考えている。

なによりこの学校の先生方の自信に満ちた指導がこの学校の特筆すべきことである。設備が整い、先生方、スタッフの皆さんの慈愛に満ちた見守りと情熱が、生徒に笑顔を作り出させていた。

最後に校長は、「確かに多くの費用もかかる。このことに関しては国民の同意が大切である。学校・福祉・警察との連携を大切にしていく。他者に対する寛容性が一番大事である」と締めくくられた。大事にしなければいけない事である。

障がい児への施策は、人を人として、平等の精神で見守ることがなにより大切である。この基礎から立脚して一人ひとりを温かく見守り、育てていくという基本を再度確認した。このことを都政においても、常日頃から再確認することが必要である。

施設についても充実していた。なにより施設内が広い。都ではなかなか難しいのかもしれないが、この空間はうらやましい。都が出来ることとして、静かな環境を整えるのは責務であろうと考える。

マルグレーテゴーアンス・バーネフス保育園・幼稚園でも、個々の成長、社会性の能力の成長、言葉の成長、自然との共生、文化的な協調、体力の向上といった6点の重要点を挙げて説明を受けた。保育園と幼稚園を併設しているこの施設は先進的な事例として注目に値する。日本における幼保一元化に向けての考察として、実践している施設であるからである。

朝は早く、6時15分に保育がスタートする。7時30分までには登園してもらう。朝食、昼食、おやつのお給食を受けることになる。そして17時に閉園する。

社会的要請もあると判断するが、早い時間からの開園と、朝食があることに驚いた。

保育園は月額2000～3000DKK（36,000円～54,000円）と有料であるが、幼稚園は学校教育の一環となるので無料となる。したがって、4歳10ヶ月にスタートする幼稚園に入園するのが常である。この施設は保育園と幼稚園を併設しているので、午前中の幼稚園が終わるとすぐ保育に切り替えて、保護者の迎えを待つことができる、実践的な施

設である。この点は見習うべきものがある。

ここで注意をしなければいけないのは、0歳児から保育園に子どもたちがいるので、いわゆる年少・年中の子どもたちと共通の空間であると危険である。したがって部屋を明確に分けていた。

また、午睡のために、ベビーカー専用の部屋もあった。午睡の時間になるとベビーカー（ベット風になる）に乗せて別の部屋に入れておく。この部屋は屋根付のサンルームみたいな感じの部屋であったが、冬でもストーブは入れない。初夏などは午睡が終わると、そのベビーカーのまま庭に出られるようになっていた。

閉園時間になったので、続々と保護者が子どもたちを迎えにきた。保護者に迎えられながら、写真の様な自転車に安全ベルトをしてもらって子どもたちは帰宅していった。



送り迎えの自転車乳母車（約15万円）



ヘルメット・シートベルト着用終了

さすが自転車の国であるので、自転車にベビーカーを連結して引っ張っていくタイプの自転車があったり、前輪にベビーカーを連結したタイプの自転車であったりしたが、2月の雪の町に子どもを乗せた自転車が颯爽と帰っていった。

この保育園・幼稚園はなによりも子どもたちを中心に据えている。都政においても見逃してはいけない考え方である。ともすると大人の都合になりがちであるが、子どもたちにとって最善な方法はなにかと考えた末の幼保一元化なのだと考える。運営も機敏になり、費用面でも優位性が出ている。

午前中は幼稚園教育。午後は保育というスタイルになるが、時間割、利用施設場所等、子どもたちにとってストレスにならない最善の方法を探っていた。今後日本においても、都としても実践すべき施策ではないかと考える。

デンマークの「教育機会の平等・公平という理念と運営」は今後の東京都の教育の充実・発展、に寄与するであろうと確信する。この事例を参考にしつつ今後の東京都政、東京都の教育に生かしていくべきと考える。
(文責 興津 秀憲)